

水稻・大豆栽培情報 8月号

令和6年7月12日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水稻】

1 中干し

生育は、昨年産に比べやや早く、曇天続きにより、草丈は長めに推移しています。中干しは、無効分げつの抑制や倒伏防止のため、生育状況を確認して適切に行います。昨年産は、中干しの遅れたほ場が多く見受けられました。そのため、茎数が20本/株（田植え後約30日前後）になっていることを確認して中干しを行います。

品種	中干し開始時期（目安）
元気つくし、ヒノヒカリ、実りつくし	7月21日頃から
ヒヨクモチ	7月24日頃から

- ※「元気つくし」、「実りつくし」：6/20移植、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」：6/24移植の場合の目安です。
- ※「元気つくし」、「実りつくし」は、倒伏軽減のため田面が白乾しない範囲で”強めの中干し”を実施しましょう。

2 施肥

穂肥時期の目安と施肥量は、以下のとおりです。適正粒数確保と充実向上のため、水稻の生育に応じた適切な肥培管理を行います。

(kg/10a)

品種	穂肥①時期 (追肥一発も同時期)	穂肥①	穂肥②	追肥一発	出穂期 (予想)
		NK化成2号		ワンショットエムコート206	
夢つくし	7月25日頃	15	—		8月12日頃
元気つくし	8月2日頃	15	10	15	8月20日頃
ヒノヒカリ	8月9日頃	15	—		8月27日頃
実りつくし	8月14日頃	15	10		9月1日頃
ヒヨクモチ	8月20日頃	20	15	25	9月7日頃

- ※穂肥①及び出穂期の時期は、「夢つくし」：6/15移植、「元気つくし」、「実りつくし」：6/20移植、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」：6/24移植の場合の目安です。
- 幼穂長が5mmになっていることを確認しましょう。
- ※穂肥②は穂肥①の1週間後に施用します。
- ※葉色が濃い場合は施肥時期を遅らせるか、施肥量を減らします。

3 水管理

穂ばらみ期から穂揃期は、生育期間中で最も水を必要とする時期です。穂揃期以降は、根の機能維持のため、間断かん水（3～4日おきに湛水と落水を繰り返す）を行います。また、台風の接近等で強風の恐れがある場合は、深水にして稲体を守ります。台風通過後も数日は水分の蒸散が激しいため、湛水状態を継続します。

【大豆】

遅まき対策について

今年は播種適期に入っているにもかかわらず、7月中旬になっても雨天予報が続いていることから、播種時期が適期を過ぎるほ場が出るのが予想されます。

そこで、以下の対策を行って下さい。

1 排水対策

できるだけ早く播種できるように、暗渠のフタをはずし、周囲溝の設置や排水口の整備等を行い、ほ場の乾きを促進します。

2 播種

播種可能な土壌条件になるまでに、可能な範囲で土壌改良資材の散布や耕起前の除草を済ませておきます。播種量を増やし、株間を短くなるように調整するとともに、基肥に窒素を含む肥料を加えて、生育量を確保します。

○播種量

播種期	7月1日 ～20日 (適期播)	7月21日～ (遅播)
株間(2粒/株)	30～20cm	15～10cm
10a 当り播種量	3～5kg	6～9kg

播種深度は3cm程度の深さを基本とし、土壌の水分状態に応じて調整します。梅雨明け後、晴天が続く場合はやや深め(5～6cm程度)とします。

○基肥

遅播きでは、大豆の生育量が不足しますので、生育量確保のために **ちくごのめぐみ444を15kg/10a**を施用します。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル(①適用作物、②使用量や希釈倍数、③使用時期や総使用回数、④有効期限)等を確認!
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底!
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄!
- 4 防除履歴の正確な記帳!